

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

学びの改革支援課

- 令和元年度から、知識と活用（A・B問題）を一体的に問う調査問題となりました。また、小学校理科及び中学校理科は4年ぶりに実施されました。
- 小学校国語と理科、中学校数学は、平均正答数及び平均正答率が全国と同程度となり、中学校理科は若干上回りました。一方、中学校国語は、平均正答数及び平均正答率が全国を若干下回り、小学校算数は、全国を下回る結果となりました。
- 小学校国語については、令和3年度に「国語重点対策チーム」を立ち上げ、授業改善の視点を示すなどして学校支援を行った結果、改善の傾向が見られています。
- 小学校算数、中学校国語については、「重点対策チーム」において、調査結果を踏まえた授業改善の重点を明確にし、学校を支援していきます。

## 1 実施状況

学校	当日実施学校数（集計対象学校数）	当日実施児童数（小6）・生徒数（中3）
公立小学校	350校（内特別支援学校3校）	15,087人
公立中学校	187校（内特別支援学校6校）	15,529人
公立小・中学校計	537校（内特別支援学校9校）	30,616人

※当日実施児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

## 2 長野県と全国の平均正答数と平均正答率の比較（公立）

[上段]：平均正答数／設定問題数 [下段]：平均正答率

校種	年度 教科	令和4年度		年度 教科	令和3年度（理科 平成30年度）	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.2／14問 66%	9.2／14問 65.6%	国語	8.9／14問 63%	9.1／14問 64.7%
	算数	9.8／16問 62%	10.1／16問 63.2%	算数	11.1／16問 70%	11.2／16問 70.2%
	理科	10.8／17問 63%	10.8／17問 63.3%	理科	9.8／16問 61%	9.6／16問 60.3%
中学校	国語	9.6／14問 68%	9.7／14問 69.0%	国語	9.1／14問 65%	9.0／14問 64.6%
	数学	7.1／14問 51%	7.2／14問 51.4%	数学	9.1／16問 57%	9.1／16問 57.2%
	理科	10.6／21問 50%	10.4／21問 49.3%	理科	17.9／27問 66%	17.9／27問 66.1%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

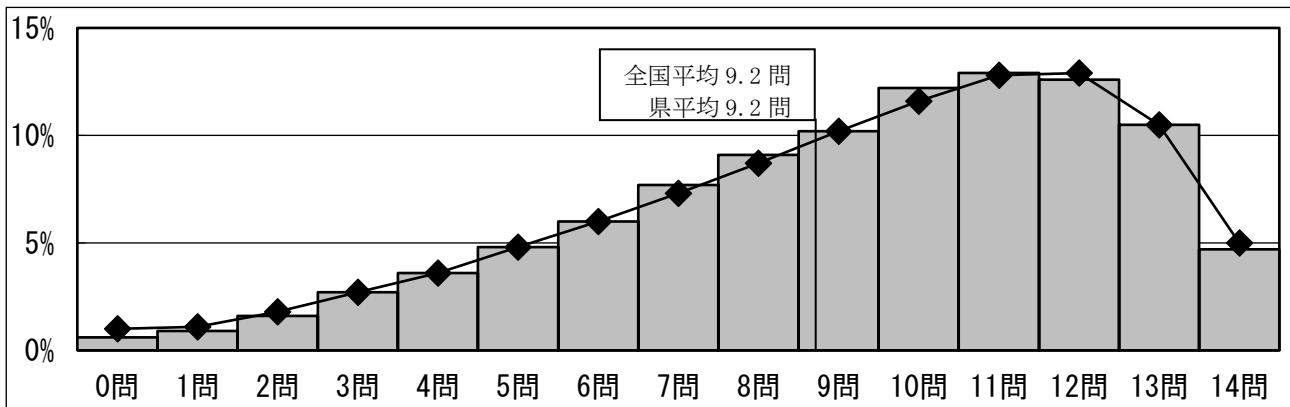
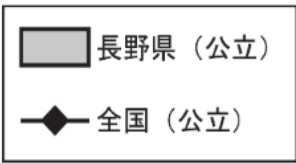
### 3 長野県と全国（公立）との正答数分布グラフの比較

小学校

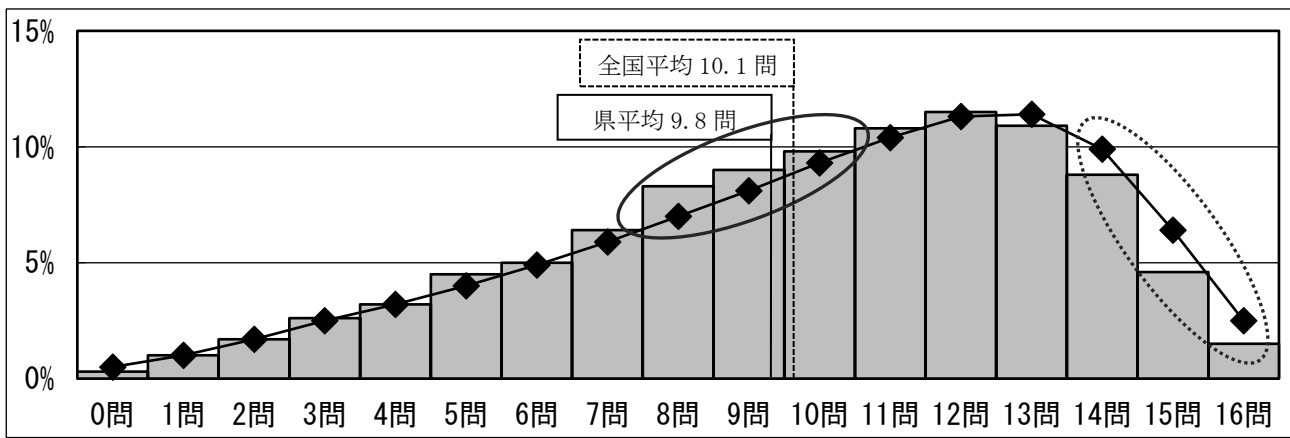
国語と理科の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。算数では、正答数が8から10問の割合が全国平均よりもやや高く、14問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。

【国語】

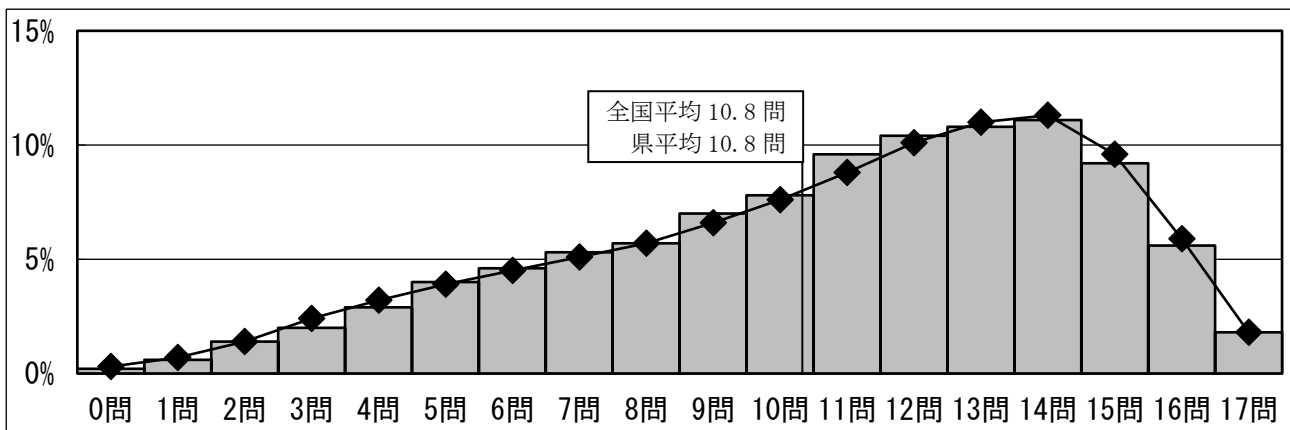
[正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）]



【算数】



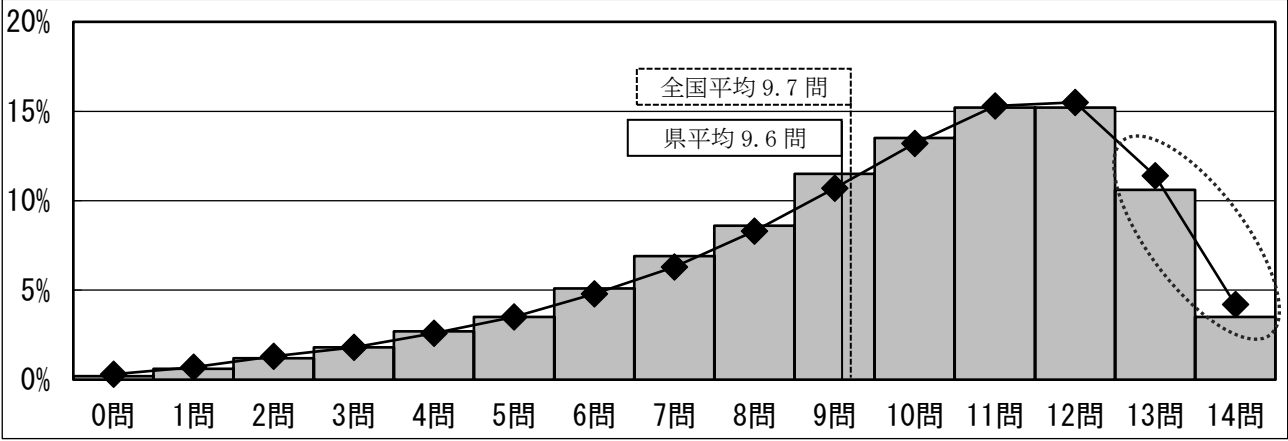
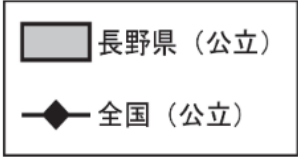
【理科】



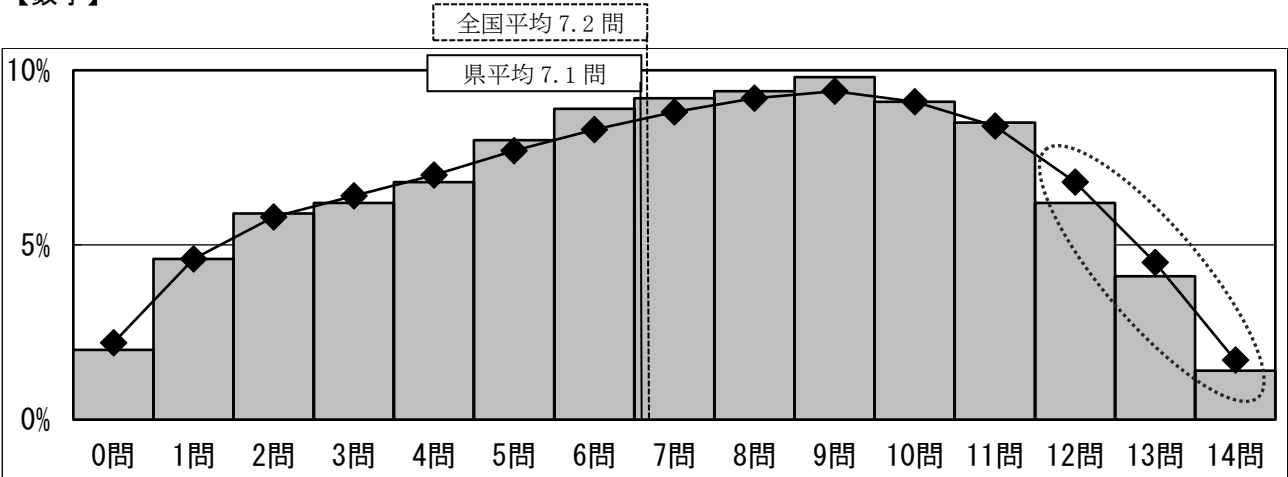
中学校

国語と数学の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向であるが、国語は13問以上、算数は12問以上の割合が全国平均よりも低い。理科では、正答数が3問から7問の割合が全国平均よりもやや低く、12問から15問以上の児童の割合が全国平均よりも高い。

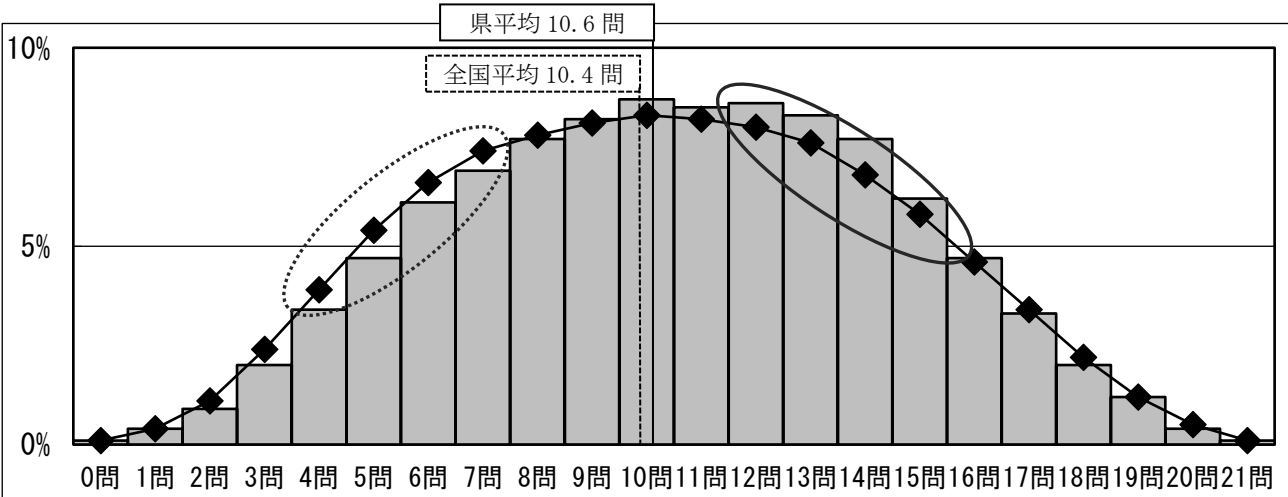
【国語】



【数学】



【理科】



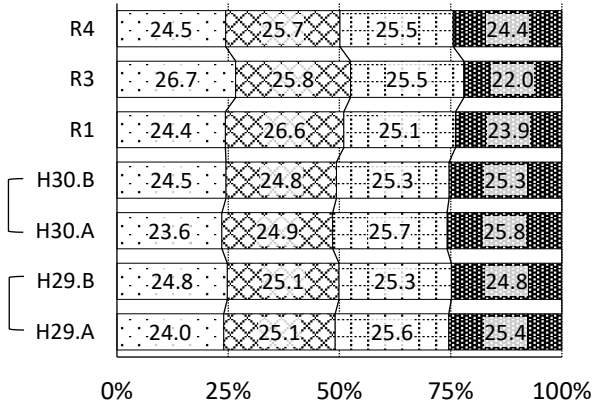
#### 4 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとした上で、各区分に入る長野県の児童生徒の割合を求めたもの。

##### 小学校

##### 小・国語

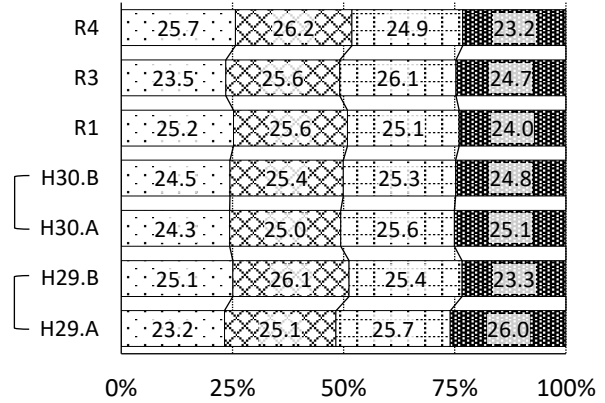
□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



##### 中学校

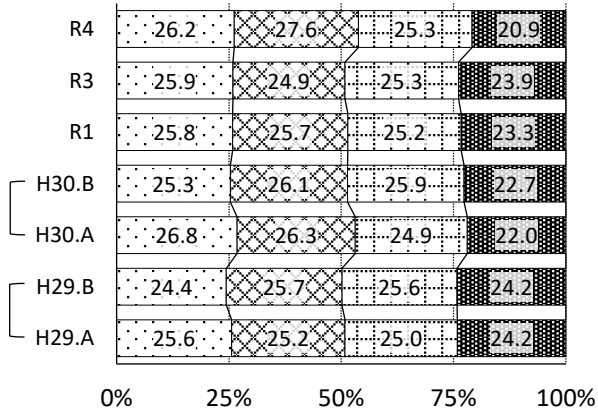
##### 中・国語

□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



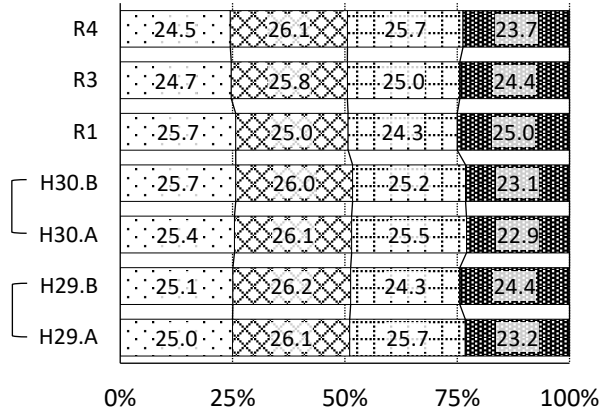
##### 小・算数

□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



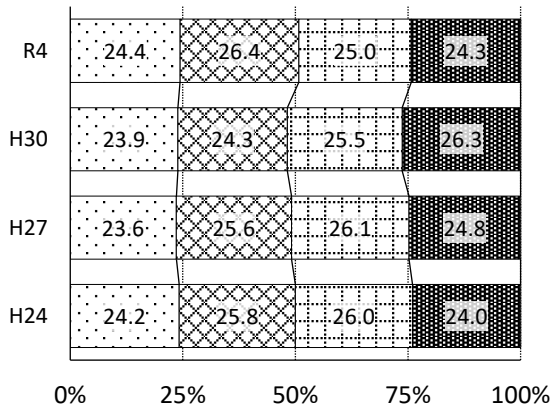
##### 中・数学

□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



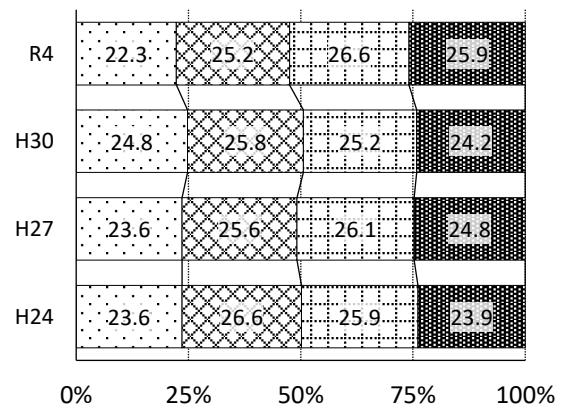
##### 小・理科

□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



##### 中・理科

□Ⅳ ▨Ⅲ ▩Ⅱ ■Ⅰ



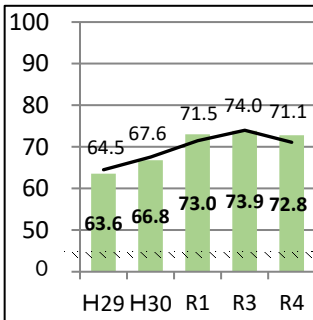
小学校理科、中学校理科の平成 24 年度は抽出調査。

## 5 児童生徒質問紙調査の回答状況

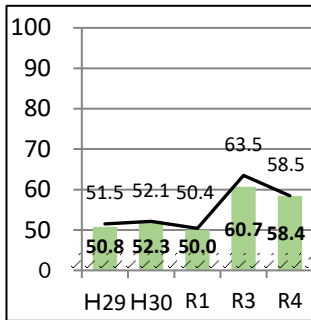
※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合



① 家で自分で計画を立てて勉強をしている

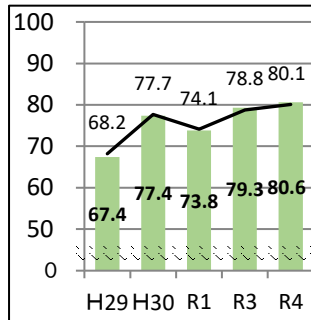


[小学校]

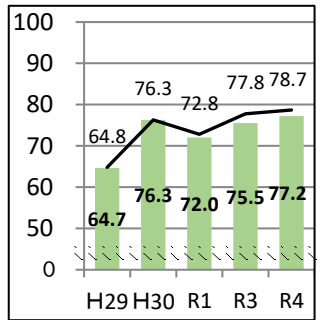


[中学校]

② 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



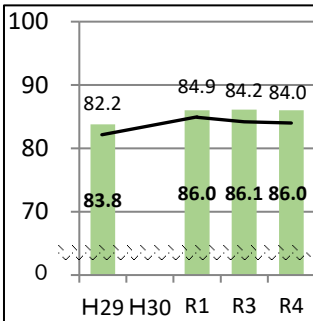
[小学校]



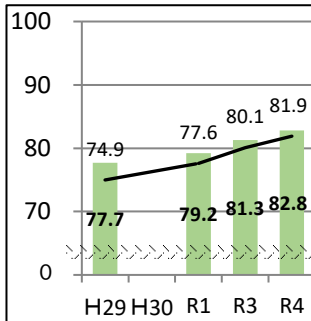
[中学校]

③ 国語の授業の内容はよく分かる

※H30 児童質問紙は調査項目なし



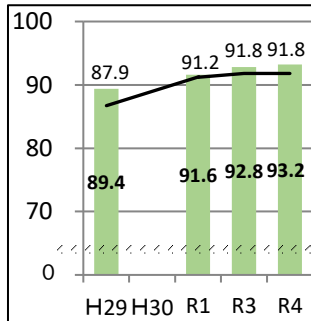
[小学校]



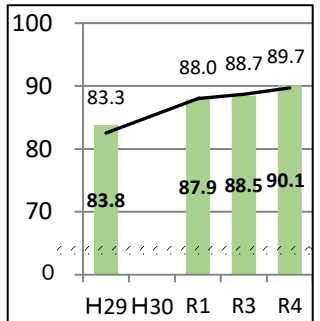
[中学校]

④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う

※H30 生徒質問紙は調査項目なし

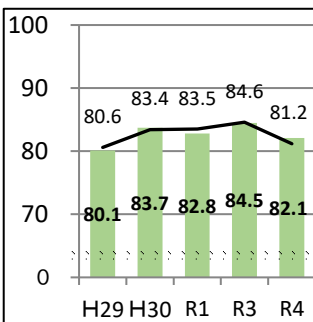


[小学校]

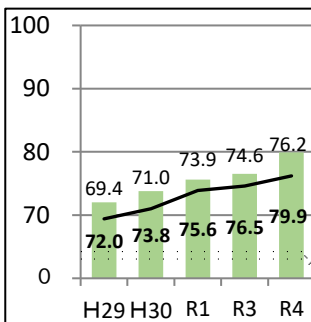


[中学校]

⑤ 算数・数学の授業の内容はよく分かる

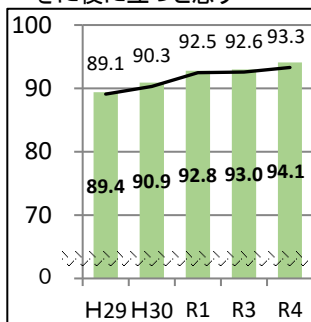


[小学校]

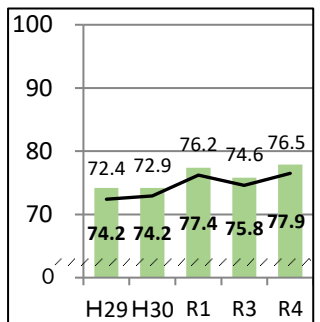


[中学校]

⑥ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う

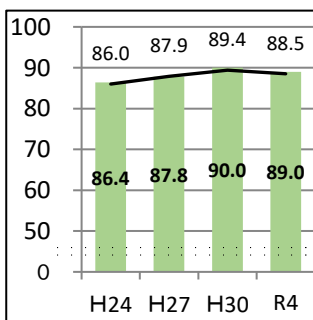


[小学校]

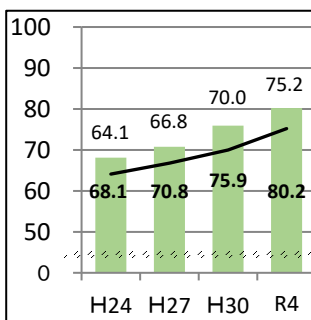


[中学校]

⑦ 理科の授業の内容はよく分かる

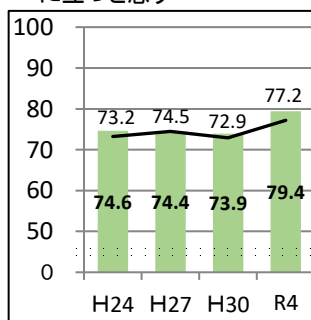


[小学校]

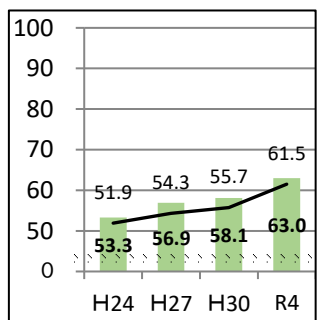


[中学校]

⑧ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う



[小学校]



[中学校]

計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合は、ともに昨年度より全国同様やや減少した。また、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる児童生徒の割合は、全国と同様に増加した。

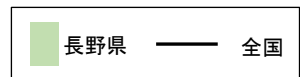
国語については、「授業の内容が分かる」と回答した児童の割合は昨年度並みで、生徒はやや増加した。また、「授業で学習したことが、将来、社会で役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合はともに9割を超え高い水準である。

算数・数学については、「授業の内容が分かる」と回答した児童生徒の割合は、ともに8割程度であり、全国よりも高い。また、「授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合はともに増加し、児童は昨年度並みの9割を超えた高い水準を保っている。

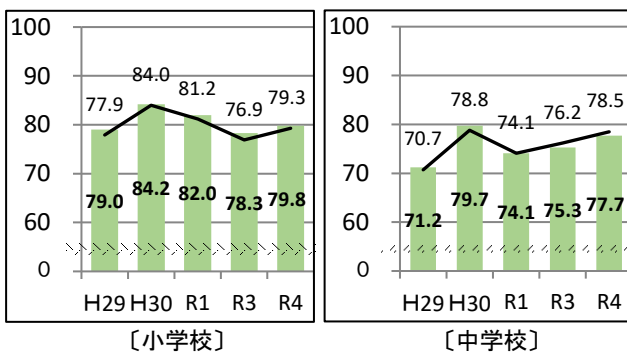
理科については、「授業の内容が分かる」と回答した児童生徒の割合は、児童は9割程度で全国同様高く、生徒は前回より増加して8割程度で、全国よりも高い。また、「授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合は増加し、全国よりも高い。

## 6 児童生徒の様子や ICT の活用状況

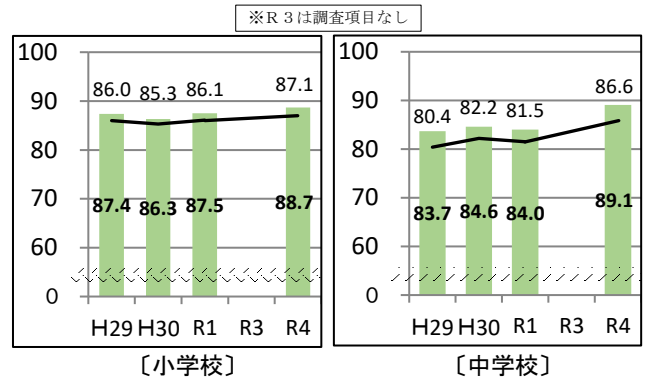
### 児童生徒質問紙調査



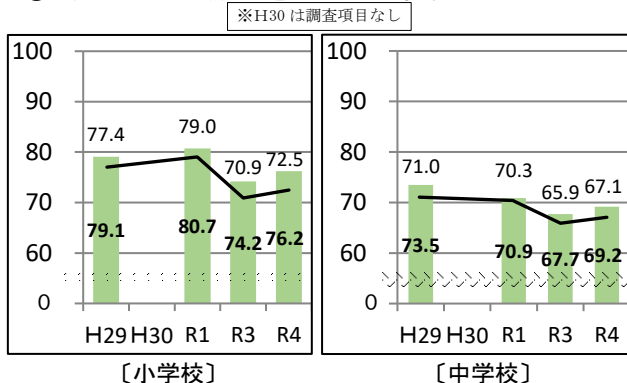
① 自分には、よいところがある



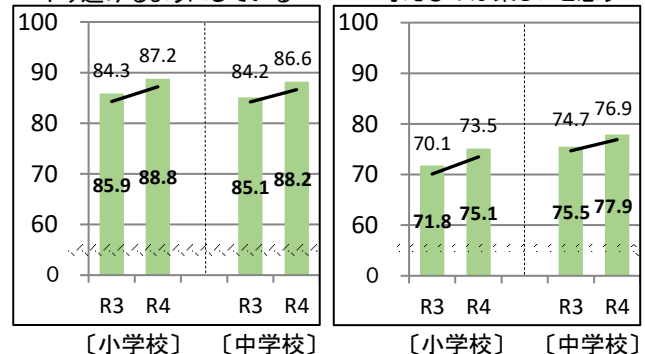
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれている



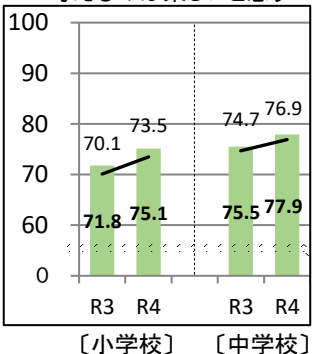
③ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



④ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている



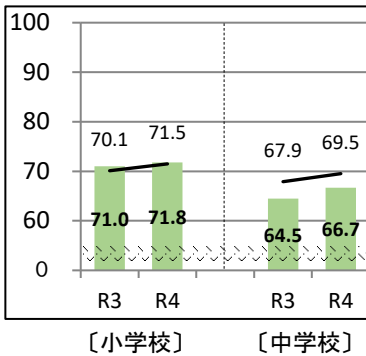
⑤ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う



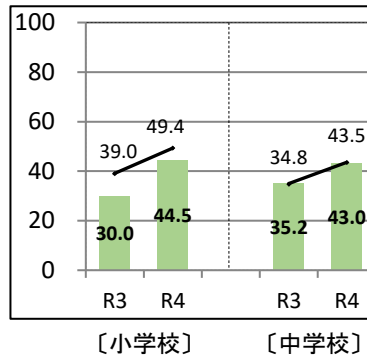
「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合は、全国同様に増加し8割程度である。また、「先生はあなたのよいところをほめてくれる」と感じている児童生徒の割合も増加し、9割程度である。特に生徒の割合が一昨年度よりも5ポイント以上増加している。

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」及び「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」児童生徒の割合は、ともに増加し全国よりも上回っている。

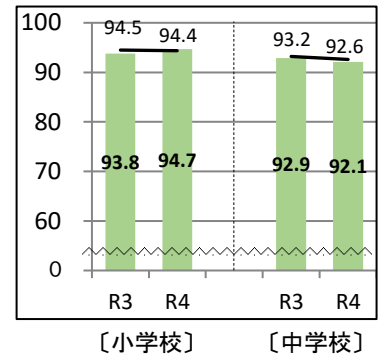
⑥ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている



⑦ ■学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使っている (R3)  
■学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使っている (R4)



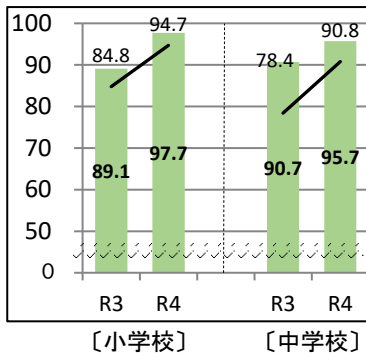
⑧ 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う



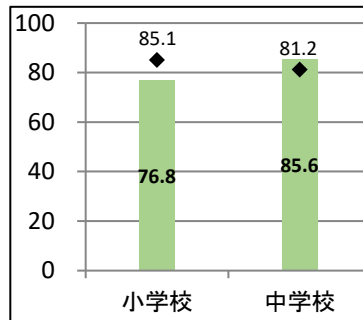
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合は、全国同様昨年度より増加した。ICT 機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用している児童生徒は、昨年度は3割程度にとどまっていたが、今年度、友達と意見交換する場面では4割程度であった。また、ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思っている児童生徒の割合は、全国同様9割を超えている。

学校質問紙調査

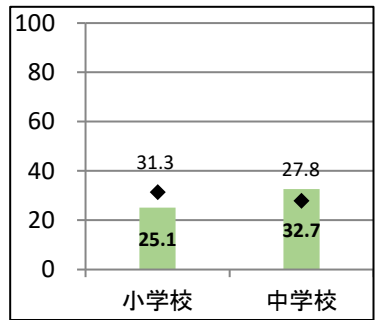
⑨ 教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある



⑩ 前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用した



⑪ 児童生徒がやりとりする場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用した



教員がコンピュータなどの使い方を学ぶために必要な研修機会があると回答した学校は、小・中学校ともに9割程度あり、高い水準となっている。

児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、前年度までに授業で3回以上活用していた学校、児童生徒がやりとりする場面で週3回以上使用している学校は、ともに小学校は全国平均を下回り、中学校では全国平均を上回った。

## 7 今回の結果を踏まえた重点的な取組

### (1) 各学校の課題に応じた支援

- ・成果が見られる学校に聞き取り調査をし、その効果的な取組を全県に広め、各学校が分析結果を基に、これまでの取組を検証し、組織的・継続的に授業改善に取り組めるよう支援する。
- ・各学校がS-P表を活用するなどして、補充・補完など、重点的指導を明確にして授業改善に取り組めるよう支援する。

### (2) 市町村（学校組合）教育委員会との連携の充実

- ・地域の課題に応じた学力向上の方策について、GIGA スクール構想の取組も踏まえつつ、市町村（学校組合）教育委員会とより一層連携し、課題解決に向けた改善を図っていく。

### (3) 小学校算数、中学校国語への重点的な支援

- ・小学校算数、中学校国語については、「重点対策チーム」において、調査結果を踏まえた授業改善の重点を明確にし、学校を支援する。

---

※S-P表：Student-Problem score table のこと。設問の正答率順、正答者数の多い順に児童生徒と設問を並び替えた正誤パターン表のことで、調査問題の特徴や児童生徒の反応パターンなどを分析するための手法。教員にとっては授業改善の手がかりとなり、児童生徒にとっては個別のつまずきが確認できるなど、分析に活用できる。